

東上野地区のランドマークとなる駅前複合再開発事業
「東上野四丁目A-1地区再開発準備組合」設立
～事業協力者に東京地下鉄(株)・(株)大林組を選定～

東上野地区の駅前複合再開発事業の実施に向け、このたび「東上野四丁目A-1地区再開発準備組合」が、2024年3月26日に設立されましたのでお知らせいたします。

今後は、市街地再開発事業の実施に向け、地権者が中心となって具体的な計画策定に着手いたします。

また、事業協力者には、東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区/代表取締役社長：山村明義）と株式会社大林組（本社：東京都港区/代表取締役 社長兼 CEO：運輸賢治）が選定されました。

本地区の検討区域は、昭和通りと浅草通りの交差点に位置する約1.0haを想定しており、上野から浅草を結ぶ玄関口にふさわしい都市機能の整備を図ってまいります。

詳細につきましては別紙のとおりです。

<事業概要>

事業名称	(仮称) 東上野四丁目A-1地区第一種市街地再開発事業
施行地区	東京都台東区東上野四丁目の一部
地区面積	約1.0ha
完成目途	2030年代半ば

<検討区域図>



※この検討区域図は、国土地理院発行の地理院地図（電子国土 Web）を使用したものです。

<台東区における本地区の位置づけ>

上野地区は、東京メトロ・JR 等鉄道各路線が結節するターミナル駅の上野駅があるとともに、世界に誇る文化・芸術資産や多様で歴史ある魅力が集積しています。台東区は2040年代頃の上野地区の将来像と取り組みの方向性を示す「上野地区まちづくりビジョン」を策定し、上野公園等の“杜”と“まち”を重ね・繋げ、“杜”と“まち”の相乗効果を発揮することにより、日本の文化芸術立国を牽引し、国際競争力を強化する文化・芸術の創造発信拠点を形成することを目指しています。

その中でも、本地区のある東上野四・五丁目地区では、台東区が2019年に大規模用地の活用を契機としたまちづくりの実現に向けた「東上野四・五丁目地区地区計画」を策定し、適正な土地利用の誘導とともに、公共公益施設の再編や大規模な敷地の機能更新などにあわせた段階的なまちづくりを目指しています。

この地区計画では、地区全体で上野から浅草を結ぶ玄関口にふさわしい賑わいと交流を育む拠点を創出する等の目標が定められています。本地区の検討区域であるA-1地区では、浅草通りの玄関口としての立地特性や上野駅とのアクセス利便性を踏まえ、建築敷地の整序・共同化により土地の有効利用・高度利用を図るとともに、東上野四・五丁目地区のエントランスにふさわしい広場等の公共空間の整備を図ることが位置づけられています。

<準備組合設立の経緯・今後の方針等>

本地区のまちづくりの方向性を検討することを目的に、2018年3月に「東上野四丁目地区エントランス街区勉強会」が設立され、全16回の勉強会が開催されました。その勉強会の中で、より具体的な検討を進めるステップとなる準備組合を設立することについて、多くの権利者から賛同が得られたため、このたび準備組合を設立するに至りました。

今後は、台東区における本地区の位置づけを踏まえた上で、権利者や周辺地区の皆様の発展にも寄与するまちづくりの実現に向けて、権利者とともに検討に取り組んでまいります。

以上